

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

子供達が何に興味、関心があるのか情報を収集の上学校、円と協議し子供たちのニーズに沿った事業を企画し参加の促進を図る**【今年度の取組紹介】**

コロナ感染症対策に留意しながら今年度の活動を行いました。
イオンモール学研登美ヶ丘店でダンスクラブ・合唱クラブのクリスマス発表会を開催いたしました。

子供達は10月から毎週練習に励み当日は地域の多数の方々の前で楽しく元気いっぱいに披露いたしました。



ひつじ放牧活動は6月25日より8月8日まで開催いたしました。

子供達は当番日に、ひつじの餌として、各家庭より野菜等を持参し、糠と一緒に草引きをした草もたべさせてくれました。合わせてひつじの健康状態を確認のため糞をチェックし、ひつじ小屋の掃除をしてくれました。

また、登美ヶ丘幼稚園より園児たちがひつじとのふれあいを楽しみました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ感染症の制限を受けるなか、対策に配慮しながらの活動でしたが、上記のほか前年度活動を縮小していましたサマーセミナーも8講座（郷土・国際・文化・健康等に関する）を開講いたしました。星空観察では天体観測には絶好の日にあたり土星、木星の月、オリオン座流星群の観察ができました。子供達、保護者達から感動の声が多くありました。一方、予定日の天候により中止になったこともありました。

昨年に続き凧づくり、凧あげ大会を実施いたしました。親子で協力して作成した凧あげでは空高く舞い上がった凧に歓声が沸き起こりました。

【来年度に向けて】

子供達だけの事業も大切ですが、親子で共同して参加する事業にも引き続き配慮した企画の立案に努めていきます。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

様々な活動を地域に発信する意識を持ち、できる限り子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

昨年度まで、コロナ感染防止のため、様々な取組を縮小してきましたが、今年度より多くの取組を復活させることができました。ただ、コロナ禍により、行事を見直すきっかけになり、「本当に生徒たちに必要な行事は何か」といったことを再度見直し、取組を進めていきました。まず、「環境整備事業」として、地域・保護者の方とグラウンドの整備（草刈りなど）、生徒会や園芸科学部の生徒を中心に、校内にたくさんの花を植えました。花を育てることにより生命の大切さを学び「心」「人間力」を育成する情操教育として効果的でした。次に「学力向上事業」として薬物乱用防止教室を実施し、薬物の危険性について学びました。「キャリア教育推進事業」では、講師の方に来校いただき、性教育、面接指導、労働に学ぶなどの講座を実施し、人間関係形成能力や課題対応能力を培いました。



【今年度のまとめ】

地域とのつながりを深めるため、様々な取組を実施し、教師と地域との関係づくりができたように思います。特に、環境整備事業では、一緒に汗をかきながらグラウンド整備をし、きれいになったグラウンドを見て達成感を分かち合いました。また、校内に花をたくさん植えることにより、近隣住民の方から「きれいですね」といった声をかけられることが多くなり、そのことがきっかけとなって地域との関係が広がりました。しかし、生徒と地域の方とのつながりは期待どおりにいかず、来年度に向けた課題だと考えています。

【来年度に向けて】

今まで、教師・地域の方が考えた取組（企画・運営）を生徒たちは与えられていました。生徒たちは、当事者意識を持てずに参加することとなり、主体性が育たず、地域への所属感も育成できてなかったように考えます。来年度は、「生徒と地域のつながり」「生徒が自分の地域を自分でよくする」「生徒主体の取組」この3つをキーワードとして、来年度の様々な取組を見直していきたいと考えています。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

《キャリア教育支援》

◆対話型キャリア教育プログラム

このプログラムは、オンラインを活用した個別の対話型授業を通して、自己理解を促しながら自己肯定感を高めることを大切にしたい取組です。共感して思いを聞いてもらうことを通して、6年生児童が自分の好きなことがたくさんあることに気づき、自分のいいところを発見することができました。夢のカケラを発見して将来を楽しみにできる児童の育成を目指しています。

《体験学習事業》

◆車椅子体験 等

社会福祉協議会からの協力を得て、4年生が車椅子の体験をしました。自走と介助、それぞれを体験しました。自走では対象物に近づくだけでは手にすることができず、車椅子の向きに注意しなければならないことが体験して理解できました。



《環境整備活動事業》 地域の方と共に行う環境整備

◆通学路清掃、図書整備

保護者の方や学校近隣の方に学校環境の整備を進めていただきました。図書室は司書の方々の助言指導をいただきながら、より使いやすい図書室へと変わっていき、利用する児童の数も増え、環境整備の大切さを感じています。

【今年度のまとめ】

- ・コロナ禍のなか、オンラインを活用した取組であるキャリア教育を進めることができました。今後も継続して取り組み、本校のキャリア教育の軸とした活動となるようにしていきたいと考えています。
- ・制限のなかではありますが、貴重な体験活動を実施することができました。これらの貴重な体験学習は、子どもたちの学びのスイッチを入れ、たくさんの気づきを生み出します。

【来年度に向けて】

来年度は学年に応じた様々な体験学習や行事を行えるよう、実施の時期や形態を考えていきます。今後も保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活をするこの地域に誇りをもてる登美っ子の育成を目指していきたいと思えます。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える、子どもを育てる

取組目標

- 地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進
- 恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進

【今年度の取組紹介】

○創立50周年記念事業

地域の方々と協働して創立50周年事業を実施しました。記念式典に至るまでに、内容や掲示物について地域の方々からいろいろなアイデアを出していただき、子どもたちでそれに取り組みました。

当日は、人数を絞って来賓にもご参加いただき、地域の方から、子どもたちに対して、心に残る話をしていただきました。



○奈良県伝統工芸×東登美プロジェクト

4年生の学習で、奈良県の伝統工芸である奈良筆、奈良団扇、茶釜、赤膚焼きに携わる方々に来校していただき、話をしてもらったり、実演してもらったりしました。子どもたちは、興味津々で、じっと話を聞いたり、活発に質問をしたりして、意欲的に学習に取り組みました。

【今年度のまとめ】

今年度は、創立50周年ということもあり、地域の方々やPTAと話し合いをすることが多く、みんなで相談し、知恵を出しながら、子どもたちの心に残る活動を考え、学校、地域、保護者でできることを進めていきました。結果、とても円滑に活動を進めることができ、協働のよさを感じることができました。

また、今年度は、ESD（持続可能な開発のための教育）を学校の研究として進めたことにより、多くの学年で地域からゲストティーチャーを呼んで学習を進めました。学習の内容だけでなく、それぞれのゲストティーチャーの生き方にも触れ、キャリア教育としても充実した学びができました。

【来年度に向けて】

来年度も学校の研究としてESDを進めるので、今年度の活動を振り返って精選しつつ、さらに地域の方々と連携し、発展的に進めていきたいと思っております。特に、地域にも積極的に発信するような学習活動を取り入れていきたいと考えています。また、コロナ禍で一時中断していた朝の読書タイムも復活させ、地域のボランティアの方々と連携しながら読書活動を推進したいと考えています。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

豊かな心を持ち、たくましく活動する幼児をめざして
—遊びや人との関わりを通して—

【今年度の取組紹介】

◆「感動体験事業」ヒツジ見学

登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会が行っている「ヒツジ放牧」を、園児と保護者で登美ヶ丘北中学校に見学に行きました。各家庭で用意したヒツジが好みそうな野菜や幼稚園のクローバーなどを持参し、餌やり体験を親子で楽しみました。「ヒツジの毛って本当にフワフワしている。」「ニンジンあげたらボリボリ音がなった。すごい歯だね。」「クローバーの葉っぱが好きみたい。」と、本物のヒツジに触れ関わることができました。活動の中で様々な発見や驚きがあり、感じたり考えたりする姿が見られました。また、協議会の方や中学校の先生からヒツジの生活の話聞くことで、より一層ヒツジや地域への興味や関心をもつことができた感動体験でした。



◆「閉園事業」「感動体験事業」ドローンを飛ばそう

令和5年3月31日の閉園にあたり、幼稚園の歴史や思い出を綴った冊子を作りました。幼稚園の生活を知っていただく内容の1つとして、地域のゲストティーチャーが年間を通して来園し、ドローンの撮影をしていただきました。12月に行った親子でドローンを操縦する体験では、画面を見て操縦すると「ドローンすごい上まで上がった。」「はやい。」「私のお家はこれかな?」と、画面から地域全体を見ることができました。このことで、自分の住んでいるところを空から見たり、その技術に触れたりすることができ地域の教育力を活かす活動となりました。



【今年度のまとめ】

- ゲストティーチャーを招いての継続した感動体験事業では、人と関わりながら本物に触れ、見通しをもって意欲的に活動することができました。また、新しい活動にも興味をもち自ら積極的にたくましく活動する姿が見られました。
- 幼稚園からホームページや掲示板で様々な様子を知らせることによって、地域の多くの方が幼稚園に関心をもってくださり、幼稚園から地域に出向いたり、また来園していただいたりしたことにより一層地域との繋がりが深まったと感じます。

【来年度に向けて】

令和5年3月31日をもって、登美ヶ丘幼稚園は閉園となります。地域の方の温かなご支援をいただき、園児達は多くの感動と気づきと学びの中で育ち、巣立ってことができました。今後も温かな地域の中で、様々な経験を通してたくましく豊かな心が育っていくことを願います。

ご支援ご協力ありがとうございました。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを大切にし、子ども達が、楽しさ・温かさ・思いやりを感じられる充実した取組を行う。**【今年度の取組紹介】**

地域の方を招き、年間で3回「お話しの会」を実施しました。季節に応じた絵本や素話、手遊びを交えながら子ども達に話をしてくださいました。お話の始まる前にはろうそく立てを飾ってください、ファンタジーの世界に浸りながらお話を聞くことができました。

優しい口調で子ども達に語ってくださいるので子ども達もしっかり聞こうとする姿がありました。「今日は何のお話かな」「今日のお話 知ってたね」

「もう1回手遊びしよう」と、お話の会を楽しむ子ども達の様子がうかがえました。



昨年度から継続している「フラダンス教室」では、3人のゲストティーチャーを招き、4歳児の子ども達が参加しました。ゲストティーチャーの方々のフラダンスの衣装やメイクにも興味をもつて見たり、フラダンスを見せていただいたり、一緒にダンスを踊ったりしながら楽しんで参加することができました。また、フラダンスの動き一つ一つには意味があることや大切な人や家族を思って踊ること、太陽や雨や風など自然現象を表す動きがあることなども教えていただき異文化に触れる機会にもなりました。



と見たり、フラダンスを見せていただいたり、一緒にダンスを踊ったりしながら楽しんで参加することができました。また、フラダンスの動き一つ一つには意味があることや大切な人や家族を思って踊ること、太陽や雨や風など自然現象を表す動きがあることなども教えていただき異文化に触れる機会にもなりました。

【今年度のまとめ】

今年度は予め感染症対策を講じた計画を立てていたことで事業もほぼ計画通りに実施することができました。「サッカー教室」は、継続して取り組んできたこともあり、子ども達の生活の中にも根付いてきており「早くサッカー教室したいな」「次の試合のときは絶対ゴール決める」等と、意欲的に参加する子ども達の姿がありました。サッカー教室の中で、どうしたらうまくボールを蹴ることができるか、ゴールを決められるかなど、子ども達なりに考え挑戦していました。また、ボールを諦めずに追いかけたり、転んでも泣かずに走ってボールを追ったりするなどたくましさを感じ子ども達の成長を目の当たりにすることができました。

【来年度に向けて】

- ・地域の教育力を生かした活動を保育内容に取り入れ、豊かな経験ができるようにし、活動内容に刺激を受けやってみようとする意欲や思考力を育てていきたいと考えます。
- ・取組内容をタイムリーに保護者や地域の方に写真を使って伝え、子どもの育ちや事業内容の理解につなげていくようにします。